

# 神 戈 陵

祭  
交

第38号

題字 西 春彦 著

○発行所 川辺高等学校東京同窓会

○発行日 平成 26 年 10 月 18 日

○編集発行人 大平 政弘

○印刷所 株式会社 盈進社 ☎03(3262)3471

写真 橋口 教頭先生

# 第38回会 総総

## 総勢二〇七名が新宿に集う



平成二六年六月二一日(土)梅雨の晴れ間のこの日、新宿ワシントンホテルにて第三八回東京同窓会総会が開催されました。

総会に先立ち「アジアの相互依存関係の変化と日本の行方」のテーマで日本経済大学大学院教授、叶芳和先生に講演して頂きました。総会は物故者への黙祷で始まりま

した。総会には遠来の大坪憲市本部長、同窓会会長、小屋敷浩昭校長、中尾龍二先生、恩師の馬渡武弘先生や近隣ふるさと会のご来賓及び会員合わせて二〇七名が参加されました。

大平会長より挨拶があり、「先般の寄付金募集についてのお礼と今後それを母校の繁栄の為の協力や東京同窓会会員どうしの親睦を図る為に有効に活用していきたい」とのお話がありました。引き続き議事に入り担当幹事より会務報告、会計報告、会計監査報告がなされ、すべて承認されました。

懇親会は講演会、総会に引き続き昭和四六年卒高倉都さんの司会で始まり、来賓の紹介のあと、大坪本部同窓会会長より「母校の発展のため地域・行政と一体となり川辺高校をアピールしている、また中学校及びPTAとも交流し入学への理解を深めて頂けるよう努力している」とのご挨拶を、また小屋敷校長先生より「生徒は皆自分の夢を目指して文武両道

に励んでいる、少ない生徒数でも存在感のある学校を目指している」とのご挨拶を頂きました。

引き続き司会者よりこの春関東地区の大学に進学した卒業生五名にお祝いを贈呈したとの報告がありました。また今回の総会の準備、運営に全力で取り組んで頂いた担当年度幹事の紹介があり、感謝の温かい拍手が送られました。

続いて鹿児島県東京事務所の松村賢志さん(昭和六二年卒)より、第三〇回国民文化祭が来年秋に県内四三市町村で開催されること、及びふるさと納税の案内がありました。また小原幹事長より、母校生徒さん達の関東地区遠征サポート募金への協力依頼がありました。募金は懇談中の各テーブルで呼びかけられ、一二十万円を超す募金が寄せられ、早速大平会長より小屋敷校長先生に贈呈されました。

そろそろ参加者が喉の渇きを覚える頃合い、昭和二三年卒田口精一さんの乾杯の音頭で懇談に移りました。今年も故郷から直送された、つけ揚げ・芋天・刺身こんにやく等の郷土料理と焼酎が各テーブルに並べられ、同級・先輩・後輩の垣根を越えた歓

談の渦がわき起こりました。

宴もたけなわの頃イベントが始まり、第一部は昭和四六年卒年度幹事の皆さんによる「南国情話」で薩摩娘と恋人の優しい恋を歌い上げて頂きました。第二部は伊藤淳さんによる三線と地謡(うたい)、昭和四六年卒高見幸明さん率いる中野区新風エイサーの皆さんの太鼓・手踊りのコラボレーションは聴衆の感動を呼び、同窓生も踊りの輪を作り大いに盛り上がりました。

懇親会の最後に元音楽部の皆さんのリードで新旧校歌を斉唱し、あの頃の余韻にひたる間もなく、昭和二七年卒峰元研二さんの力強い万歳三唱、南谷副会長の閉会の挨拶の後、名残を惜しみつつ再開を約束し閉会しました。

(昭和三八年卒 堂園 俊秋)

### 第三九回東京同窓会のご案内

平成二七年六月二七日(土曜日)

新宿ワシントンホテル

お誘いあわせの上、多数のご参加をお待ち申し上げます。



## 母校と同窓会活性化の為に

東京同窓会会長  
昭和三四年卒 大平 政弘

東京同窓会会員の皆様には、その後お変わりなくご健勝のことと拝察申し上げます。

本年六月の第三八回総会は二百名に近い会員のご出席をいただき盛大に開催できましたことはご同慶の至りであります。出席いただいた会員の皆様、ご来賓の方々、企画や運営に当たった役員、年度幹事、その他ご協力くださった方々に厚く御礼申し上げます。

さて、母校は明治三三年に創立以来、薩摩半島の教育文化の中心にあつて百十年余の間、幾多の有為な人材を輩出して日本に大きな貢献をしてきたのでありますが、ご高承の通り、地域全体の少子化の影響を主因に、入学希望者の激減に苦しんでいます。今年も昨年同様一学年三クラスの編成になりました。

しかし、進学やクラブ活動では立派な成績をあげており、母校の先生方の熱心なご指導の成果だと、感謝いたしております。引き続き、生徒それぞれが志を高

く持つて積極的に学び、それぞれが自分の将来の希望や夢を実現する基礎を築くよう教育して頂きたい、と願っています。それがまた母校が、行きたい学校、行かせたい学校になる方途でもありましよう。

東京同窓会も高齢化の現象が顕著に顕れています。『プライバシー保護』の壁もあり、関東地区在住の未会員の消息を把握するのに難渋しておりますが、いろいろな手段を工夫して若手会員の増強に努力しています。また、会員相互の交流にもいろいろ努力いたしております。そのための財務力強化のために、寄付をお願い致しましたところ、大勢の方のご賛同をいただき多額のご寄付をいただきました。本当にありがとうございます。

母校の存続発展と同窓生相互の絆を深めることを目的に、今後とも協力し努力致しましょう！最後に、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



## 母校の響きに復活への萌し

同窓会会長  
昭和四一年卒 大坪 憲市

関東各地、各分野で大活躍されていらっしゃる東京同窓会の皆様には、いつも母校に対し熱いご協力を賜り誠に感謝に堪えません。平成二六年度の東京同窓会総会も役員の皆様方の協力のもと、二〇七名の参加で盛大に催されました事に深い敬意を表す次第でございます。

又、全国高校なぎなた選手権大会に三年連続参加したなぎなた部・全国高校文化祭に県代表として参加した吹奏楽部に対し、多額の募金を賜り、さらに会場まで多数の同窓生の皆様が応援に駆け付けて下さり、誠に有難く心より厚く御礼申し上げます。

ここで、母校の現状について報告致します。二六年度春の卒業生は国公立大二八名と、伸び率県下No.1であると自負する成績でした。又、新入生は定員割れでしたが、例年より成績上位者が入学しておりますので二年後がとてども楽しみです。母校は先生方も夜遅くまで熱心・丁寧にご指導してください、在校生、父母の皆様から川辺高校にはいつてよかったと喜ばれております。

部活の方も、なぎなた部・吹奏楽部の他、水泳部の下久保美佑さんが国体強化選手に選ばれ、野球部も久しぶりに三回戦進出、二二の部活で八〇%の生徒が各部に所属し活躍しております。ボランティア活動も川辺祇園祭、磨崖佛祭、二日市等々に多数参加、地域の評判も上々です。

この様に、在校生、先生方の頑張りで人気上昇ムードになっております。今年の県教委発表の進路希望調査では、六七公立高校のうち四九校が定員割れの中、わが母校は定員一二〇名に希望者一二八名と少し上まわっております。なんとか定員を確保できるよう働きかけていきます。今年八月二日に開催した本部同窓会総会は一〇〇余名の参加者でとても盛り上りました。県内に在住する同窓生にも協力をいただき、母校存続に向け、皆でとり組んでいきたいと思ひます。最後に、東京同窓会の皆様様の御健勝を心からお祈りし、今後とも、母校発展の為、さらにお力をお貸し下さいますようお願い申し上げます。



## 「一枚の葉書」

校長 小屋敷 浩昭

畦道に揺れている彼岸花をあちらこちらで見かけるようになり、秋の風情を感じさせる候となりました。東京同窓会会員の皆様方におかれましては、ますます御清祥のことと拝察いたします。日頃から母校の教育活動に深い御理解と御支援を賜っておりますことに対し、この場をお借りして御礼申し上げます。

九月初旬、地域の方から一枚の葉書が学校に届きました。「昨日、買い物をして車へ行こうとしていたら、男子生徒さんが来られて荷物を運んでくださいまして、本当に嬉しくて、学校・家庭の御指導が行き届いていることを感じることでした」という内容でした。わざわざ葉書をくださったお心遣いと、家庭や経験において育まれたであろう生徒の手柄に幸せな気持ちになりました。この出来事の前日は、体育祭が行われた日でした。炎天下の中、今年も青春の情熱溢れる姿が見受けられました。中でも、「あ、悠遠の…」と、校歌を生徒全員が声高らかに歌ってくれた

光景に、若者特有の「純粹さ」を感じて思わず胸が熱くなりました。あの時生徒たちは川辺高生としての一体感とともに、爽やかな充実感を味わっていました。

ところで、今回も東京同窓会総会に参加させていただきました。大平会長始め、役員、幹事の方々の御尽力もあって例年以上に多数の方々が参集なさり、より熱気に包まれた総会でした。旧交を温める姿が会場の至る所で見られました。また、全国レベルの大会に出場する音楽部となぎなた部の負担軽減のために、多くの浄財をいただきました。その母校と後輩たちにお寄せいただいた温かい思いに、改めて感謝いたします。生徒たちは継承される思いに支えられながら、文武両道を目指して頑張っています。職員は一体となつてきめ細かな教育を展開し、存在感のある学校となるよう努めております。

最後になりましたが、今後も東京同窓会の益々の御発展と皆様方の御健勝を祈念いたします。



## 立ち止ってあいさつ

恩師 馬渡 武弘

今年も川辺高校東京同窓会に招待を受け、ありがたく出席させていただきました。昨年に続いて招待を受けることの光栄と感謝の気持ちをしみじみ感じながら。

今年と同窓会も盛り上がり、参加者が二百人を越えるものとなり、ビックリした次第です。東京同窓会員の絆の強さと愛校心の深さを思い知らされました。

同窓会の前日に、交流会が開かれました。その中で同窓会幹部の方が次のようなことを述べられていました。「最近、川辺高校を訪問した。生徒の動きが昔とかわらず、端正で校内も清潔で、キチンと整頓されていたように思う。特に訪問者に対して、生徒一人一人が、立ち止ってあいさつをしてくれました。先輩としてうれしく誇りを感じました。」さすが川辺高生！と思ったことです。私が在勤した昭和四二年から四六年の生徒達の動きと気質は、現在の生徒達にも脈々と引き継がれているこ

とに感心し、うれしく思ったことです。

この同窓会でうれしいことがほかにもありました。私が担任していたKさんの消息がわかったことです。

彼女は高校時代は活発で物事に積極的に取り組む明るい生徒でした。卒業後も十年間ぐらいは年賀状のやりとりなど連絡し合っていたのですが、ある時からブツツリ消息が途絶えてしまいました。それから三十数年経ち、今回の同窓会を迎えました。担当幹事の一人である岡野信久君の尽力により、彼女の消息が判明したのです。電話で彼女の声を聞き思わず涙が出てしまうがありませんでした。波瀾万丈を生き、今は東京で落ち着いた豊かな生活を送っているようです。才能の豊かさが発揮されているのだと思っています。

楽しい東京同窓会でした。年度幹事の松久保茂法君、広瀬裕教君、それに前述の岡野信久君たちには特にお世話になりました。感謝。

日本の中で考えているアジア・中国・韓国と、アジアの中で考えているアジア・中国・日本の姿とは相当ギャップがあり、日本の世論に乖離が出ているような気がしてなりません。そんな事で少しデータをだし、実態と比較しながら自分の姿を、等身大の日本の姿をもう一回眺めてみようということでお話したいと思います。

## 世界の相互依存関係の変化

二一世紀になって世界の流れが大きく変わってきました。象徴的なのが米中の結びつきが非常に大きくなったということです。九〇年代は日米関係が圧倒的に大きかったわけですが、今は全く逆転しています。このことが世界の経済だけでなく、政治、外交の流れをも大きく変えてしまいました。

## アジアは何処に依存しているか

戦後の日本や東南アジアの国々はアメリカに輸出することで経済発展してきました。今はアメリカ向けの輸出はどんどん縮小しています。ではどこ向けに輸出が増えているかというと結局中国向けに輸出している

のです。アセアンの国々も中国に輸出することで飯を食っているわけです。経済の下部構造が政治や外交に大きく影響し、経済の流れが世界をこうやって変えてきているということとを理解しておかないと日本は色んな所で空回りして、それが非常に難しい状況を作り出しているのではないかと思います。

## 日米中のGDP比較

中国の経済はどれ位の大きさに

### 特別講演

## 「アジアの相互依存関係の変化と日本の行方」

日本経済大学大学院教授

叶 芳和 先生

なっているかということですが、為替レートでGDPを比較した場合はまだアメリカの方が大きいですが、二〇一四年の中国の購買力平価ベースのGDPで計算すると、アメリカを上回ることになります。それだけ中国は大きな国になっています。経済的にはそういう大国になります。政治的には色々な議論があります。外交・交流・安全保障の問題も含めてどうやって付き合うかということ、相手がどういう国であるかと

いうことを客観的に評価しないと自分の姿も分からなくなってきました。なんとなく日本の世論が分かっているのかどうか心配になってきました。

## 中国市場での日本のシェア低下

中国の経済成長は七%で輸入総額は増えているが、しかし日本からの輸入だけどんどん減っているのです。アメリカ、ヨーロッパそれに韓国のシェアは殆ど一定です。一人日本だけ沈んでいるわけです。日中関係

の政治的な悪化が経済に反映していると考えられます。

## 日本外交の効果

### — 価値観外交VS相互依存 —

日本の外交の基本は今、価値観外交で、民主主義など普遍的価値観を共有した国家と外交を行うものです。日本の価値観外交がどこまで効果があるか。各国が中国との間でサブライチエーンを構築して経済的な相互依存関係がこんなに大きくなってい

ると、なかなか思うようにはいかななくなっています。

## 日本におけるアジア論調と

### A I I B 創設の現実

アジアインフラ投資銀行というのを、中国主導でやるうという議論が



突然出て来ました。日本は除外されていて、アジアの国は全部そこに統合されているわけです。日本で考えているアジアの国々、中国とアジアの国々が考えている自分達の姿や中国は違うという事です。今のやり方をやっている世界の中で日本が孤

立しかねないという事です。それよりやはり交流を増やし、交易を増やし、貿易を増やすことで日本の富を維持して日本の経済発展を維持する、そういう事をもう少し真剣に考えないと日本自身が孤立してしまい、経済がうまくいかないから将来何年後に大きな負担がかかってきます。

**Chinaリスク(脱中国論の虚実)**

もう中国は危ない、脱中国という事で、日系企業が中国から撤退している、こういう議論が多いのですが、大企業で中国のマーケットを捨てる経営者はなかなかいないでしょう。政治的な悪化がそのまま撤退に繋がっているわけではないと考えた方がいいと思います。

**日本ODAの戦略的転換**

外交的に日本はちよつと空回りしているのではないかという気がします。空回りを避ける為にどうするかということが今私の考えている事で、私はミャンマーが民主化したので、ミャンマーを軸にしてアジアの事に入手を入れようかなと考えています。ミャンマーは軍事政権のもとで教育は途中で止まっています。その事が

影響してスキルのある人間がいないわけです。私は学生も教えますが、残りの時間は全ミャンマーの大学の先生、工学部の先生を再教育しよう、そうしたらミャンマー全体の技術革新の役に立つ、とこういう提案をしました。教育を通して人材を育てる事に協力することが一番効果のある日本の外交の在り方ではないだろうか。最後のお勤めとしてそういう風に日本のためにやってみたいなというのが今のわたしの思いです。

**講師ご紹介**

叶 芳和 先生

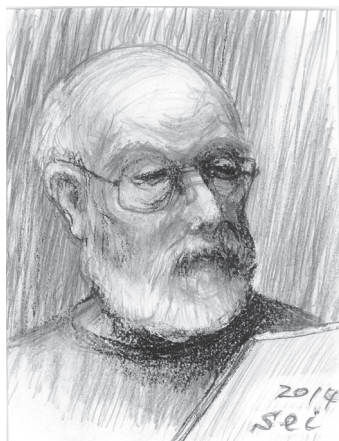
一九四三年 奄美大島 生まれ  
一九七七年 一橋大学大学院卒業  
現在 日本経済大学大学院教授  
(財)国民経済協会会長、総合研究開発機構客員研究員、拓殖大学教授、シンガポール研究所客員研究員、帝京平成大学教授、この間、数々の政府審議会専門委員を歴任  
専門分野・中国・アジア経済 他  
著 書・農業・先進国型産業論  
(昭和三八年卒 堂園 記)

**陵友だより**

**遺産の継承**

昭和三年卒 田口 精一

先頃、古来の日本語が逆用されている珍事が報せられ大きな話題となった。「ことば」を命とする者としては、これが現実、今の日本と申し上げるしかない。「正しい標準語」を身につけるべく只管「お国訛り」を消そうとする私に「君は、私たちが望んでも得る事の出来ない大変な財産を持つてるんだよ。羨ましい。大切に「給え」と声を掛けられた。そして、伝統文化の継承「ことば」の持つ重みについて諄々と説いて下さるのだった。生涯の恩師となる滝沢修氏との出会である。この方が、戦前「体制批判」をしたと獄に繋がられ、訴因が島崎藤村の「夜明け前」における青山半蔵の名台詞「もう直ぐ夜明けだよ」である事も知るのもう少し後になる。「議を言うな」で育てられ、敗戦によつて「多事争論」に変貌「自由」「平等」「民主」などという言葉に兔惑い「今度は騙されまい」と上京して来た、元軍国少年にとつて、正に驚異の



存在であり、稽古場は忽ち「人間教育」の場となった。兄弟子でもある宇野重吉氏の「嘘をつくな！言葉の出自をちゃんと押えたか？本当にそう思つて言つたのか。分りもしないでスラスラ言うな。厳しい人生生きてきたお客には通じない。恥を知れ！」突き刺さる叱責に震え上りながら、誰もやめなかった。「漫画ばかり見ると、お芝居もソウなるよ」との師の言葉が甦える。「上手いんだなア、実に上手い。しかし、心にどんと来ないんだ」と嘆いた美校時代の先輩は「売り絵描き」には絶対ならんと言ひ。傍らの知人に「感動で席を立ててなくなった舞台との出会いはもう無いのだろうね」と問いかけられ、言葉にまつて仕舞った。今や、幼児が上手にスマホを操作する時代。多様化した価値観の中で、創る側も観る側も変つて当然だろう。だが、スポーツや芸術との

感動的の出会い、今も変りはない筈だ。出会った人は、再び足を運ぶ。足りないのは努力でしかない。久し振りの故郷公演で振り仰いだ桜島は、私にそう告げるかの様に煙を吐いていた。

### 東京同窓会は永遠です！

昭和二五年卒 篠田徹男

東京同窓会が発足して今年で三七年になる。一口に三七年と言うが、生まれたばかりの赤ん坊が学齢期を終え、恋をし、結婚し、そしていいパパやママになる長い年月である。立派なものだと改めて感謝する。

発足当時の熱気、それはまさに青春の息吹だった。当時、幹事長だった室屋数盛さん(昭和十年卒)と職場が近かったこともあってお引き受けした事務局長だったが、定年退職を機に北海道に移り住み、同時に事務局長も辞任した。以来二〇年、あとを引き継いでくれた後輩諸氏の努力で毎年恒例の総会が連綿と続き、多くの会員が懇親の輪を広げている。私事ながら川辺に何の引っかけりもなく、遠いエゾ地に故郷や母校のニュースが伝わることもほとんどない。ただ東京同窓会だけが唯一ふ

るさとのつながりと言っている。しかし東京は遠く、年に一度とはいえ総会への参加もなかなか思うに任せないが、今年も二〇〇名からの参加があった由で、大平新会長のもと目を見張るような活動が展開されている。

もとよりの会の存在理由は親睦だけではない。それも大事な柱には違いないけれど、母校のさらなる発展のために各自が持てる力を精一杯出し合おうというのが会の理念であり、発足当時の会長、川野重任先生の持論でもあった。母校の勢いに陰りが懸念される今こそ、会の活発な活動が求められるはずだ。

設立に係わられた先輩はすでにほとんど他界され、今年の参加は十九年卒の白石先輩だけだったと聞く。人は変わり、時は移る。しかし連綿と続く伝統は生き続ける。長島元巨人軍監督の現役引退宣言を思い出す。その言葉をそっくりりただこう。「わが東京同窓会は永遠です！」

### 同窓会を回顧して

昭和二五年卒 有馬 力

東京同窓会に入会した年は、昭和

も終わりに近い頃だった。当時、市谷にあった私学会館(現アルカディア)だったと記憶している。錚々たる大先輩の中にあつて大変恐縮した事を思い出す。そもそも同窓会に参加することじたい考えもしなかった。

きっかけは、二十五年卒同期の坂本清澄君より「同窓会を開くから出席しないか」と誘いを受けた事だった。その四〇五日後に篠田徹男氏(「森林だより」の著書)より便りを頂いた。「人生五十年云々」とあり、五十歳の年に集まることに意義があるのではないかと案内だった。この便りを受け取った時は、お互い三十有余年のご無沙汰に大変驚いた。当時は自分自身漸く落ち着いた時期でもあり参加することにした。

場所が神楽坂の鳥茶屋である日本料理と粋な会場である。これは坂本君の肝煎りだった。二回三回と重ねる毎に下町の浅草、上野両国あたりの日本料理店で開催が続いた。この間、連絡等色々面倒かけたのが読売の部長大倉野君(故人)だった。本当に楽しい至福の時間を過ごした。そして、担任であった(中一の時の)常先生上京の折に、銀座で集まったのもいい思い出である。

前後するが、平成十年頃、安田至君の誘いで、「興南会」への入会を勧められ同期会の十人程が入会した。その「興南会」は川野重任先生の指導のもと結成され、会誌「興南」を発行して、多くの会員が参加していた。丁度、十五周年記念行事、鹿児島市での川野先生の講演会に同行したのが始まりで、その後は、我々同期の松田、吉見、馬場、川口、大倉野、森田、前竹と発行の都度お手伝いをした。『興南』百号までは頑張ろう』を合言葉に二十五年間継続してきたが、二十四年の七月、百号を以って休刊することに決まり一応の区切りをつけた。

百一号を出す段取りの相談をしている矢先に安田氏が急逝されて、松田健三郎氏に代理をお願いして再建を準備、新会長を前原東二先生に依頼し快諾された。そこで、盈進社の下園典子さんが百一号をどうしても出版するようにと、川野先生の遺志を継いで行くという信念で著者の先生方にお願ひし、百一号の発刊が叶い、二十六年新年号として前会員の皆様に発送させて頂いた。好評のため七月には夏号百二号を発刊した。現在、百三号出版の準備中である。

ご期待ください。

諸先生方、会員の皆様のご協力を  
お願い申し上げます。私の回顧と致します。  
興南会理事会計 ありま つとむ

### 川辺盆地を世界遺産に 創造する

昭和三〇年卒 砂 走 重 行



川辺盆地を  
世界遺産に創  
造するという  
発想は、同窓  
会に出かけた

時につながるのです。そこでは、現  
職の校長さんをはじめ、教育関係者  
が上京して川辺高等学校の廃校  
が話題になっていました。その後、  
私なりに「廃校なんて何とかならな  
いものか」と考え続けていたのです  
が、ふと「そうだ、川辺盆地を世界  
遺産に造ればよいのに」と思いつい  
たのでした。

なぜ、そんな思いに至ったかとい  
えば、思い当るものがあつたのです。  
それは、私がスペインに旅した時、  
バルセロナのクエル公園で、ドン・  
キホーテが騎士の姿で、ロシナンテ  
に跨り、長い槍を持って遠くをみつ

めている銅像に出会ったのです。と、  
その瞬間「私はこの旅の間、ドン・  
キホーテになって何でも見てやる  
う」と思いついたのです。スペイン  
は、行く先々どんな田舎にも旧市街  
があつてそこには今なお人々が生活  
しています。街の景観は、教会や市  
庁の広場を中心に街並が続いていま  
す。驚いたことに、夫々の小さな旧  
市街は、みな四〇〇年以前にできた  
ものばかりで、世界遺産に登録され  
ているとのことでした。そんな中、  
バルセロナでは、ガウディーの創案  
した聖家族教会が、一〇〇年がかり  
で建創中だったのでした。その教会の  
壮大さは、目をみはるばかりです。  
これなどは、いずれ永く存続し、そ  
のうち世界遺産になるのは間違いあ  
りません。

私が、川辺盆地を世界遺産に造り  
たいと思いついたのは、このスペイ  
ン旅行をドン・キホーテになって行  
脚したことから閃いたのでした。  
世界遺産は、そこに住んでいる人々  
が造るもので、私財で為すものでも  
ないです。薩摩半島の先端地域で生  
きる人たちが、風土や地形を取り入  
れ、人類の精神進歩の一端を後付け  
る仕事に取りかかりたいのです。

### 歩こう(アルコール)会

昭和三四年卒 椎 原 紘 一

学校を出て最初の勤務地が野田市。  
そんな関係から、さしたる理由もな  
くこの地に住みついてしまいました。  
野田市は、千葉県の最北端。東を  
利根川、西を江戸川、南はこの二つ  
の川を繋ぐ利根運河、川に囲まれた  
醤油の町です。東京駅まで一時間  
少々のにあります。

定年後十年余り、幾つかの仕事に  
関係してきましたが、去年から自由  
の身になりました。できるだけ健康  
を保持し、できるだけ惚けないよう  
にと始めたのがウォーキング。近く  
の江戸川のウォーキングロードを毎  
日歩きます。水の流れや対岸の埼玉  
県の景色を眺めながら。そして、東  
京スカイツリーを遠望しながらの歩  
きです。空気の澄んだ秋や冬には、  
富士山や日光連山まで望めます。  
三百軒余の町内は、かつては活気  
に満ちた新興住宅地でした。子供た  
ちの元気な声が飛び交っていました。

大人達は働き蜂となつて、日本の発展  
を支えてきました。その働き蜂たち  
も今では年金生活者となり、静かな  
住宅地へと変化してきています。ただ

残念なことは、現役時代仕事一筋で、  
お互いを知る機会がなかったことです。  
現状を鑑み、二年ほど前、有志の発  
案で町内に「歩こう(アルコール)会」  
なるものができました。月に二回ほど、  
江戸川の堤防を十キロ歩こう会とい  
う訳です。それがおわたつたら、即アル  
コール会となります。缶ビールを片  
手に他愛もない話に興じます。参加  
自由規約なしのこの会、毎回二十五人  
程度の参加者ですが、千葉県生まれ  
はたつたの二人。ほかは全国各地の出  
身です。因みに九州では、会長が大分  
福岡二人、熊本一人、私を入れて鹿児  
島二人。ふるさとの話、現役の頃の仕  
事の話、健康の話、年金の話、時には  
かかつてきたオレオレ詐欺の電話の  
話など、相互理解と地域住民の輪を  
広げる面に大きく貢献しているよう  
に思います。これも歩く、いやアルコー  
ルのなせる業だと感じています。

### 思いつくまま

昭和四〇年卒 本 田 昌 平



気に入らぬ  
風もあろうに  
柳かな(仙崖)。  
ストレス解  
消について私

なりの解決策。

第一の方法、自分は誰よりも優れていると信じてことです。自分よりは皆知識・教養が劣ると考えます。この立ち位置ですと他人のいかに愚かな言動でも仕方がないと鷹揚に許せます。全てを受入れると不思議とイライラや怒りが湧きません。釈尊の天が上夫が下我に優る聖者なしやフランスのノブレス・オブリュージュと同じ立ち位置です。

第二の方法、第一の方法と間逆の考えです。自分以外は皆天才と捉えることです。他人の言動が頭にきて、私の計り知れない奥深い思想に基づく行為であると思えば納得しなくても許せます。つまり自分は馬鹿に徹するのです(私の場合徹しなくとも十分馬鹿と言われていますが)これも総てを受入れてストレスを感じません。

第三の方法、私の母の教えです。上という字は下がみえませんで下という字は上が見えませんで中という字は上も下も中間も見えます。つまり中庸が一番良いというのです。第一の方法も第二の方法もどちらかといえば誤魔化しです。立ち位置を常にニュートラルにしておき、是々々々

で適切に対応することでストレスと向き合っていくのが中庸の考えです。しかし、怒ってははいけません。怒るという行為は、俺は正しいのだという態度。これは理性の対極であり極限の無知です。

第四の方法、そもそもストレスは存在するのでしょうか。ありもしない物に取付かれて悩んでいませんか。理解不能のことを考えるのはやめましょう。分からないことが分からないことだと分かることが分かることです。思考停止しましょう。かく言う私でもストレスを感じる言葉があります。それを列挙して思いつくまを閉じます。お得です・ポイント・キャンペーン・何々と思います・群れる・禁酒デー・生涯現役・がんばろう日本。

### 「ふるさと」

昭和四一年卒 森山昭利

「ふるさと」追いつきの山、小鮎釣りの川……、これは懐かしい小学校唱歌「ふるさと」の出だしです。私は知覧町で生まれ、川辺高校を卒業した昭和四一年三月までを過ごしました。その後、大学や会社勤め

に伴い、福岡、東京、さらにはロンドン、ニューヨークなど国外の都市でも暮らしましたが、「ふるさと」は知覧」という思いは変わりませんでした。

私にとって「ふるさと」の原風景は、幼いころの自分の足で歩いて行けたところで、小学校、中学校やその通学路周辺、遊び場だった田畑、野山や河原です。

そのため、高校でバス、大学で電車、会社で飛行機といった交通手段を利用したためか、行動範囲が広がるにつれて「ふるさと」への印象はうすくなったように感じます。

亡き両親の墓をこちらに移し、生家も処分した今となっては、知覧に帰る理由もほとんど無くなりました。また、老境の友人たちがUターンや生れ故郷の近くに落ち着くUターンをする例も増え、「ふるさと」は遠くならにけり」と感じる今日この頃です。

ところで、最近の町村合併に伴う名称変更や地域的な拡大で、これまでの「ふるさと」も変わりつつあるようです。さらに、自分の生まれ故郷と関係ない市町村でも、「ふるさと納税」で一種の寄付をすれば農産物や特産物をもたらえるという制度が、

若い人中心に人気を集めているそうです。いまや、新しい「ふるさと」のイメージができてつつある、ということかもしれません。

私も、「心のふるさと」はそのままとして、今の住まいを「第二のふるさと」と考え、残り少ない「第二の人生」を過ごすのが、前向きな生き方ではないかと思いついています。

### 活力の源泉

#### 「マスターズ水泳」出場

昭和四二年卒 小椋みつ子 (旧姓 小原)

十八年前、閑静な住宅街で、自転車ごと跳ね飛ばされる事故に遭い、何かすっきりしない日々を過ごしていました。

そういう中でした。「水泳教室」の広告が目に入り、まるで吸い寄せられるかのようにスポーツジムの門をたたいていました。

同世代らしき方々が、スイスイ泳いでいるのを目の当たりにして、元来スポーツ好きな私の心は揺さぶられました。私もと、その日のうちに入会いたしました。

まずは水に慣れることから始めようと初心者コースに申込み、吸う・水

中で吐く・止める、呼吸の練習から始め、リハビリの辛さをエネルギーに必死に練習しました。

二十五米泳げるようになると、泳ぎが楽しくなり、何時しか毎日プール通いになるほど、泳ぎの虜になっていました。一日の目標を決め、泳いでいるうちに、もつと、泳げ・泳げ」という内なる声に励まされ二千米を泳ぐまでになりました。

健康や相互理解に重点を置いた水泳を楽しむ大会として「マスターズ水泳」があります。年代別に元オリンピック選手から初心者まで幅広い選手が出場できます。このマスターズ大会に参加するようになりました。ゆつたりとした泳ぎを楽しんでいた私も、隣のコースを意識するようになり、次第にスピードにも挑戦するようになりました。今年も背泳ぎ三種目で自己ベストを更新し、日本マスターズ短水路千葉大会に於いて、二百米自由形、背泳で優勝の榮譽を得ることができました。

水泳を始めて、規則正しい生活リズムが出来、事故の前よりも体の調子は良くなりました。スイマーの皆さん肌がとても綺麗ですよ。水泳はセルフエステ！私のお勧めのスポーツです。

マスターズの最高齢は百歳、私もまだまだこれからです。来年は二百米個人メドレーに挑戦したいと思っています。

### 気の置けない同級生

昭和五〇年卒 内村 哲也

今回の東京同窓会は若い世代の参加者も増えて大変盛り上がりました！

幹事年度の方々のご尽力もあってイベントも楽しく、すごくいい時間になりました。同級生はもちろん、二学年上下の学年の人たちと話せるのもいいですね。もう、ほんものの鹿児島弁で話していました(笑)。学生時代は話す機会もなかったのに今こうして同窓会で話をしながら笑っているというのも不思議なものです。

私達昭和五〇年卒は、東京同窓会のあと同級生だけの二次会を行いました。その時の写真です。今回はひとり、鹿児島のご実家に戻る同級生もいましたのでその壮行会も兼ねて一八名もの参加でした。同級生どうしの会話は楽しく時間も早かったのでさらにその次にカラオケまで行きました。私達五〇年卒は、三〇、四〇代の頃は集まっても少人数でしたが、五〇歳くらいから参加者が増え、今で

は会うのが高校卒業以来という同級生も参加したりしてきます。卒業以来参加する方はドキドキ、心配でしょうが一緒のテーブルに着くとあつという間に仲良く歓談です。今は、暑氣払いと忘年会の二回集まって飲んでいきます。時々趣味の合う仲間登山登り・ハイキングに行ったりゴルフに行ったりしています。

これからも、気の置けない仲間みんなでいい時間を共有していきたいと思えます。

東京同窓会も大先輩の皆様が築いていただいたものですが、これから今回のように若い世代に伝えるこ



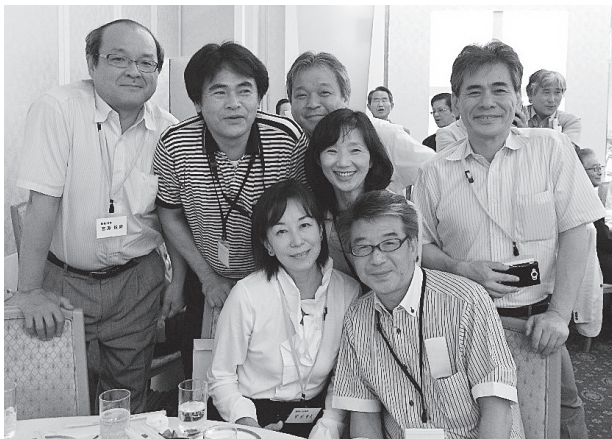
の場をさらに楽しいコミュニケーションの場にしましょう！

### 川辺高校グラウンドの記憶

昭和五四年卒 満留 辰郎

二〇一四年関東は暑い日が続きました。三五度を超える日も少なく、遠い昔の辺高のグラウンドの暑さを思い出させました。その記憶は日差しが強ければ強いほど、不思議と私に運動をさせたがり、五十も半ばの錆びついた身体も記憶に倣いエアコンの効いた快適な部屋をでて汗をかきに出かけます。高校のわずか三年間、正確には二年三か月でしたが、休まず続けた野球部の練習が三五年後も心身に深く影響を残したというのでしょうか？

辺高グラウンドの北東側にバックネットがあり野球部、ライトの神戈陵側にサッカー部、センター側にソフトボール部、レフト側にラグビー部が練習していました。打球が当たりはしないかと冷や冷やしながらも、迷惑かけながらの練習でした。練習は最初にグラウンドの石ころ拾いをすることが日課で、私が守っていた一二塁間とライト側は旧校舎の瓦礫が埋まっていた、拾っても、拾っても



新しく出てきて際限が無かったことを思い出します。

さて、今年の東京同窓会総会で川辺高校は少子化、都市への人口集中など厳しい環境下にありながら、良き伝統が綿々と受け継がれ、先生方、同窓会をはじめとする地域に見守られながら在校生が精一杯励んでおられることを聞き、私自身もその伝統に育んで貰ったのだと身に染みて感じられました。

東京同窓会では昭和五四年卒の同期が、七名が集まりました。昨午が二名だけでしたので、同窓会事務局様の熱心なご活動の賜物と感謝申し

上げます。

卒業以来の再会もあり、総会の後の二次会まで楽しく語らうことが出来ました。出席した面々も彼らから聞く同級生も其々が公私ともに大いに活躍されているとのこと頼もしい限りです。

一方、すでに亡くなった同級生の若々しく美しかった面影を思い出し、そのご冥福を祈ることもできました。

次の同窓会にも暑さに負けない元気なからだに参加できるよう、日頃の運動を増やさねば・・・

### 初めての同窓会出席と夏の帰省

昭和五七年卒 上原和之

三度目の転勤で千葉に暮らすようになり早十三年になりますが、ご案内いただき、初めて川辺高校同窓会に出席できました。東京のご真ん中で気兼ねなく鹿児島弁で会話し、懐かしい新旧校歌も歌い・聞き、非常に楽しいひと時を過ごしました。

やっぱり、同窓ならではのつながりっていいなあ！と想いながら帰途についたことでした。ただ、惜しむらくは、同年代の出席が少なく諸先輩方のパワーに圧倒されたこと。



すこしずつでも参加者が増えていたら、もっと楽しくなるので、同年代の皆さん、如何ですか？

さて、高校卒業以来 毎年恒例化しているお盆の帰省！心配された台風による飛行機の揺れもなく無事に鹿児島空港に到着！関東での心配をよそに影響はほとんどなく、一安心でした。六月の同窓会出席もあり、毎年帰省し眺めている風景一つ二つが感慨深く感じられ、例年以上にしっかりと胸に刻んでいこうと思えました。

帰省中は、短い間ながらも、親戚一同での恒例のBBQや卒業以来毎年続いている旧友との飲み会（これ

が一番の目的！）等々都会と違いゆったりと時間の流れる心落ち着く空間で、気のおけない旧友や親戚と最高のひと時を過ごせ、心身ともにリフレッシュできました。変わりゆく田舎の風景・変わらない親戚/旧友とのつながり・再会……。おかげさまで、沢山の元気をもらい充電できました。

私の今年の一押しは、実家近くから見た田上岳【写真】です。時代と共に街並み変わっていく中、私達をずっと見守ってくれています。変わるものと変わらないもの！感慨深いものがありました。

最後になりますが、同年代の皆さん来年の川辺高校同窓会で、私の見た最近の川辺事情で盛り上がりませんか？

### 『春に咲く 歓喜の花』

昭和六二年卒 松村賢志



今年の八月に、全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演に行く機会を得た。

高校生一人ひとりから、日本音楽、郷土芸能、演劇を通して、

私たちに何か熱いものを伝えようとする懸命な姿が見られた。そして、その姿(言動)から、高校時代とはこんなにも人を心身ともに大きく成長させてくれるものかと、改めて強く感じさせてもらうことができた。

私自身が、高校時代に成長したのかと言えば、その自覚は全くない。高校生活を振り返ってみると、多くの悩み・葛藤を抱えながら過ごしていたという記憶が蘇ってくる。ただ、その悩み・葛藤が今の自分を作り上げる原点・スタートだったのではないかと思える。

現代の高校生も、少なからず、それぞれに悩みや葛藤を抱えながら今を生きているのかもしれない。そして、音楽や演劇などを通して、その解決策を見出そうとしているのではないかと。ふとそんなことを考えさせてくれる公演であった。

最後に、私が心の拠り所としている詩を載せて終わりにしたいと思います。

『温室の花は、少し寒いと、すぐにしおれますが、厳しい冬を越えたくましく春を迎えた芽には、冷たい北風にも耐える力が具わって

いるのです。

自分自身の心はどうでしょうか。

何の悩みも苦しみもない安楽こそが幸せであり、少しでも困難に遭うと、自分は不幸なのだ、決めてつけているところはないでしょうか。困難を避けようとする弱さを破るのですよ。

そして、この試練こそが、暖かな春を呼ぶために、自分を鍛えてくれる冬なのだ、どこまでも明るく前を見て、喜びに燃え立つ心で乗り越えていくのです。

そこに、真の歓喜の花は咲いていくでしょう。』

## 必死だった青春時代

平成二年卒 中 蘭 雅 晴

今年五月三十一日、国立競技場で開催された「SAYONARA FOR THE

FUTURE」に於いて、ラグビーレジェンドマッチと称し、明治大学OBレジェンドVS早稲田大学OBレジェンドの試合が行われた。今年四三歳になった私も明治大学四〇代OBレジェンドに選出され出場させていただきました。

ラグビー大学選手権の聖地である国立競技場。八〇年代、九十年代ラグビーブームの中、国立競技場を六万人の観客で唯一満員にできた早明戦。功績を称えられての国立競技場最後の競技として選ばれたそうです。

二年前、ピッチにはじめて立った国立競技場の六万人の歓声の中、鳥肌がたち、震えが収まらなかつた事を思い、感無量の記念すべき一日となりました。

四年間の在学中に三回の日本一を経験させていただきました。当時、箱根マラソンとラグビーはNHK正月の定番として全国放送が行われ、奇しくもNHK会長であられた大先輩の川口会長から激励のお手紙を頂き、また私が四年生の早明戦には、鹿見島、川辺から沢山の方々が国立競技場に応援に来て頂き、故郷の、同窓生の温かさに鼓舞されました。

当時の一本目(一軍)と、二本目(二軍)の力は拮抗していて誰が出ても可笑しくないメンバーの中、早明戦までは、古豪国学院久我山の高橋君と私でNO8を交互に務めました。早明戦一週間前に北島忠治先生、寺西コーチから呼ばれ「お前が明治のNO8だ！ガッ」と国立競技場

で大暴れしてくれ！」と晴れてNO8の指名を受け、早明戦のパンフレットには明治の看板である重戦車FWの「NO8」に私の写真と出身校「鹿見島川辺」、エピソードが紹介されてありました。トウスポ、サンスポでは、「早明戦のNO8は誰がなる!」、「古豪国学院久我山の高橋か?」「無名校鹿見島川辺の中蘭か?」と特集記事で取り上げられたりもしました。

しかしながら、当日NO8を掲げて出場したのは高橋君で、私はリザーブとして国立競技場に立つことになりました。

試合三日前の練習中に私が肋軟骨骨折をしてしまい、試合なんて出来ようがありません。ここまで来て!と、悔しくて、悔しくて涙がこぼれ落ちました。

走ることも出来ない状況の中、ドクターに痛み止めの注射と薬を貰いながら、痛いのと出る事になったらチームに迷惑を掛けてしまうのではないかと、冷や汗をかいた事を思い出します。

そんな中、高橋君の怪我で八分間だけ私がピッチに立つ事になりました。頭の中が真っ白になってその時

の事は全く覚えていませんが、ただ後でビデオを観たら少しではあります。八分間の出場は、明治の二枚看板としてNO8を競ってきた高橋君の配慮だったのかも知れません。

当時 母校川辺高校ラグビー部は同期七名、先輩後輩併せて二〇名弱のぎりぎりの部員数でした。ラグビーとの出会いは、中学生の正月、ブラウン管に映し出された「満員の国立競技場、雪中の早明戦」を観て、泣き、震えが来るほど感動した時からです。そしてラグビーを志すようになったのは、両親に貰った183cmの恵まれた身体と有り余る闘志と自信がそこにはあったからだと思います。

小学校、中学校までは、持久走大会、相撲大会、柔道の大会等で優勝するといつも喜んでくれる尊敬する父がいました。その父が高校2年の文化祭当日に亡くなり、私はどうして生きていけば良いのか途方に暮れました。悩みぬいた揚句の結論は、天国の父が喜んでくれる事をする！何でも良いから一番になる事を誓いラグビーで日本一になる事を決めました。「前へ」進む事を決めたので

す！

母校は高校ラグビー界では無名でしたので、死にもの狂いで頑張りました。鹿児島代表として、国体、九州代表合宿と川辺に中藪がいる事を猛アピール、高校日本代表選手たちに伍して、同じ「前へ」の糧を掲げる大学ラグビー最高峰明治大学ラグビー部に入部が叶いました。

入部早々洗礼を受けました。「川辺高校」って聞いたことないな？宮崎か？「鹿児島です！」知らないな！？だいたい鹿児島の奴は根性ねえからな！悔しかった。一瞬辞めてしまえば楽になると考えた事もありましたが、天国の父との約束が耐えさせてくれました。また川口会長を筆頭に各方面で活躍、母校の名を馳せている姿を拝見して、勉強ではないがスポーツで「鹿児島県立川辺高校」の名を世に立てる事を誇りに思い、必死に頑張りました。

国立競技場最後の試合で電光掲示板に「中藪雅晴」の文字とアナウンスが流れた時に「パパって凄かったんだね！」と呟いたという長女。娘との絆も深められたかな。ちよっぴり誇らしく、報われた気持ちになりました。

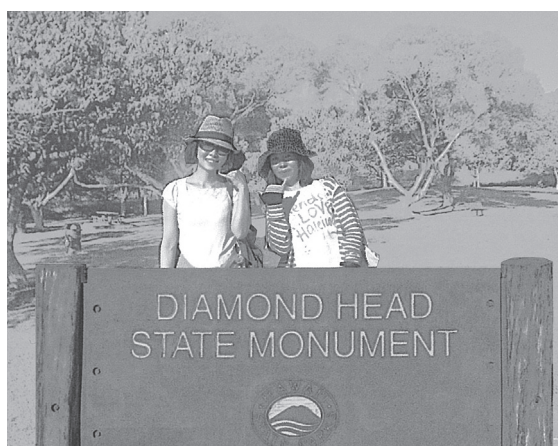
## 高校時代で見つけた大切なもの

平成六年卒 才田和代

私は現在千葉県に住んでおります。六月に開催された東京同窓会に久しぶりに参加させていただきました。同窓会会場内は、鹿児島弁であふれ、私も鹿児島弁に戻り、東京にいることを忘れてしまったような不思議な感覚でした。普段はなかなかお会いすることができない先輩方や久しぶりに会った同級生と楽しい時間を過ごさせていただき、ありがとうございます。

さて、川辺高校を卒業して早くも二十年がたちました。高校時代は、受験勉強や部活、そして修学旅行などさまざまな思い出があります。楽しい時やつらい時、どんな時でも友達と過ごした時間はかけがえのないものでした。私は、高三の二学期に入院することがあったのですが、お見舞いに来てくれた友達が学校の様子を知らせてくれたり、授業のノートをとってってくれたりして人の優しさが身に染みた思い出があります。現在、高校時代の友達も、もちろんそれぞれの生活を送っていますが、

二十年たった今でも年二回の帰省時は必ず会ったり、一緒に旅行に行ったりする友達がいます。高校時代の友達とはお互いの気心が知れて気を遣わずにいられます。また、頻繁に連絡をとっていなかったとしても、会うと一気に高校時代の感じに戻る事ができます。これから先、自分の周りの環境が変わってもこの関係は続けていきたいです。高校は学習活動の場でありますが、ずっと付き合い合っている気の合う友を見つける場の一つであったのだと今にして思うことがあります。一生付き合っていける友達を見つめることができたら川辺高校に感謝しています。



## 年度幹事より

昭和四十六年卒 下 蘭 公 二

今年の第三八回東京同窓会には二〇七名と大勢の方々に参加していただきました。去年より四〇名ほど多いということで年度幹事としても

とても喜ばしいことでした。来年は出席者をもっと増やそうとのことですが、私の同級生の中にもまだまだ来ていない人がたくさんいますので十分に可能性はあると思います。次に年度幹事をされる方、ぜひ頑張ってみてください。東京同窓会では懐かしい先輩・同級生・後輩・いとこなど沢山の方々とお話したり騒いだりと、たいへん楽しいひとときを過ごさせてもらいました。いろいろな話題で盛り上がりましたが、やはり川辺の話は気になります。「ふるさと」の歌にもありますが、小さい頃に遊んだ山や川、自転車を通った高校までの道のりや周りの風景など、いろんなことが脳裏をよぎりました。私はもう両親も亡くなっているのが川辺に帰るのはなかなか難しいのですが、地元に戻って同級生たちと酒で

も飲んでみたいような気持ちにさせられました。恩師の馬渡先生には忙しい中を東京まで来ていただいたて本当に感謝しております。いろいろな話をして勉強させていただきました(馬渡先生の若い時には驚かされました)。これからもますます元気成長させて欲しいですね。

本部同窓会長・校長先生のお話では川辺高校は生徒数がどんどん少なくなっているということでした。すこし寂しいですね。しかし生徒は礼儀正しく、性格のいい子たちだということも聞きました。これらのことはこれから巣立っていくの一番大事なことだと思います。スポーツのほうも頑張っているようで頼もしい限りです。生徒たちを教え導いていくということは大変なことだと思いますが、川辺高校がこれからもずっと良い学校であるよう願っております。私は高校を卒業してから四〇年以上東京で生活していますが、いまだに鹿児島弁が抜けきれずアクセントがちよつと違うなどと東京の人によく言われます。小さい頃の環境・教育・生活は幾つになっても影響があるようです。高校時代は勉強しない生徒でよく職員室で担任に呼び出

されて叱られていましたが、あの時の経験がよかったのか悪かったのか、少々叩かれても動じない性格になっております。東京に出てきてアルバイト先で標準語をきれいに喋れなくて、何度もアルバイト仲間に言葉遣いやアクセントを直されたりしました。でも気にしないというか、動じないというか、頑固なのか、未だに鹿児島弁のアクセントが抜けないうことになっております。でもやはり鹿児島弁はいいですね(そげなこつちややっせんど。じゃど。てげてげ。ふんのこと。など等)。久しぶりに川辺の言葉を聞けて楽しい一日でした。

今年が幹事ということではいろいろ準備で忙しい上半期となりました。最近では六〇過ぎて定年というわけにはいかず、同級生はまだ現役の人たちばかりです。それでも忙しいなか何回か集まりましたが、その時もいろんな話で盛り上がり、久しぶりの鹿児島料理で一杯やりました。改めて皆様ご苦労さまでした。私事ですが去年(六一歳)から登山を始めました。それまでは軽い山登りもしたことがなく多少の心配はありましたが、仲間と一緒に富士登山

に挑戦してみました。途中高山病のような状態にもなりましたが薬を飲んで何となくクリア。しかし頂上でたどり着いてみるとあいにくの雨と風でとても寒い思いをし、しかも残念ながら来光も見ることができませんでした。でもそれもいい思い出です。今年は立山三山に挑戦してみようと思っております。剣岳の頂上も考えてみましたがさすがに初心者には困難なようなので今回は見送り、身の丈にあったプランを考えています。

これからの歳のことなど気にせずいろいろなことに挑戦していきたいと思えます。先輩の方々や後輩の方、同級生のみなさん、これからもよろしくお願いいたします。



# 母校だより

## 全国高校総合文化祭

音楽部

全国の高校生による文化の祭典、文化部のインターハイと呼ばれる「第三八回全国高等学校総合文化祭 いばらき総文二〇一四」が、七月二七日から三二日まで、全国から二万人の高校生が参加して、茨城県内七市町村で開催されました。母校は鹿児島県代表として、穎娃・薩南工業高等学校との合同バンドで吹奏楽部門に出場いたしました。



東京同窓会応援団と共に

三年生の尾辻さんの趣向を凝らした母校紹介は、微かな訛りを漂わせ、同窓生の私達にはより一層の風趣を感じさせられました。

演奏曲はNHK大河ドラマ「篤姫」のメインテーマで、原曲のオーケストラにも劣らない吹奏楽を奏しませて頂きました。息を合わせて美しい響きを紡ぎだす後輩たちの姿に感動し、またテレビで見た情景が浮かぶほど、感慨深いものとなりました。

ゆったりと荘厳な響きの「篤姫メインテーマ」の次は、テンポも軽やかな「鹿児島おはら節」に、三年生の中原さんのちよっぴり恥ずかしげな初々しい振付けが花を添え、とても楽しい演奏会になりました。

今回、水戸市在住の深町さん・東京から渡邊さん・東京同窓会役員の方々が、大勢応援に駆け付けてくださいました。後輩たちの若さあふれる演奏に力を貰い、コンクールの雰囲気とは一味違う面白さを感じる事ができました。

## 全国高校総体出場

なぎなた部

八月二日～四日の三日間、東京武

川辺3年  
森 有利恵

**夏雲**

（なぎなた選手選抜退白線に立ったとき、緊張で足が震えていた。でも、ベアを組む（有村）千尋の顔を見て安心できた。1年のころから2種に練習し、いつもの光景だと思えたから。高山裕司先生の楽しんでこい」という言葉通り、悔いなくやりきった。小、中、剣道一筋。新しいことに挑戦し

**悔いなくやりきった**

たいと思い、川辺高のなぎなたを選んだ。競技の年齢層が幅広いことにびっくり。剣道にはかつて良さを感じていたけど、女性が多いなぎなたは、りりしいという言葉が合う。先輩たちに恵まれ楽しい3年間を送れた。昨年の全国総体に千尋と練習が合わず、大げんかしたことがある。いい思い出だ。大学に進学し、これからも続けていきたい。（演技）決勝トーナメントに進めれば、最高だったのになあ...

道館に於いて平成二六年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）なぎなた競技大会が開催されました。

鹿児島県高校総体を勝ち抜いた母校なぎなた部は、鹿児島県代表として団体戦・個人戦・演技全ての種目に出場が叶いました。団体戦は富山県代表の南砺福岡高校と対戦し、一年生の田口・上村選手が二勝を挙げ二対〇で勝利しましたが、福島県会津学鳳に〇対四で敗れ一勝一敗となり、決勝トーナメントには進めませんでした。個人戦出場の田口選手も一勝一敗、演技に出場した田口・上村組、有村・森組共に一勝一敗で予選リーグを突破できませんでした。東京同窓会から大勢の同窓生の

皆様が応援に駆け付け、久々の大声での声援に、母校への思いを一層深く致しました。また、生徒さんたちとの懇談では、夢や目標を堂々と語って頂いた頼もしい姿に感動し、元気をもらいました。インターハイなぎなたの様子を南日本新聞等で大きく取り上げられ、八月二日は三年生の有村選手、四日は三年生の森選手のコメントが掲載されました。

母校なぎなた部は、日頃からメディアに取り上げられることが多くなりました。徳之島からなぎなた留学で



勝利した有村・森組の演技



## 事務局からのお知らせ

## 財務基盤強化と寄付の御礼

同窓会の活動を円滑に執り行うためには、安定的に使える活動拠点の確保、活動の裏付けとなる資金を適正に運用する必要があります。

活動の拠点は、株式会社盈進社様のご厚意により確保されているのが現状です。財務基盤は、会員の皆様からの会費・各事業年度で遣り繰りした繰越積立金・その他寄付金によって成り立っています。

最も基本となる資金は会費となります。総会員数一、一五〇名に対し、平成一三年度の会費納入実績は三八二名、全体の三割五分に過ぎず、納入比率の向上が求められています。これまでの脆弱な財務状況からは、会費納入実績向上に思い切った手立てを講じがたく、低迷を余儀なくされてきました。

そこでこの負のサイクルから抜け出すべく、昨秋、財務基盤充実のためのご寄附を募りましたところ、一・二名の方々から四三万円のご寄附を頂戴することができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

げます。

頂戴いたしました資金は全額積み立て、財務基盤の充実を図りました。これまで財務基盤の強化には、事業年度の遣り繰りで少額ずつ積み立てて参りました。ご寄附により財務基盤の強化が図れましたことから、各事業年度を収支均衡予算で運営することが可能になりました。

この捻出した資金で、第三八回総会・懇親会の案内状に工夫を凝らし参加者を募りましたところ、前年比凡そ三割増の一九七名の方にご出席頂きました。案内状の返信率・総会参加者が増えたことから、会費の納入率向上が予想され、さらなる財務基盤の強化が期待できます。重ねて御礼申し上げます。

## 母校サポート募金の御礼

同窓会の目的の一つに「母校への貢献」があります。東京同窓会に相応しい貢献の在り方を模索していましたが、関東地区に進学してくる生徒さんに記念品をお送りし、会員獲得の足掛かりとする。母校にとって経費の掛かる関東地区での行事・大会を支援・応援する。等の関東地区に関係する支援・応援に力点を置く

ことになりました。

今年は、全国高校文化祭が水戸市で開催され、母校から音楽部が吹奏楽部門に出場されました。また、全国高校総体には東京武道館でなぎなた部が、千葉国際水泳場では競泳に出場いたしました。

関東から遠い母校の費用は膨大になり、費用捻出に苦労してまいりました。そこで、第三八回総会・懇親会でサポート募金をお願い致しましたところ、その場で多くの同窓生から十二万円を超える募金が集まりました。また後日、会員有志から合計二十三万円のお振込みを頂きましたので、東京同窓会で端数調整させて頂き、サポート募金として合計三十六万円を母校にお送りいたしました。

母校からは丁重な御礼のお言葉を頂戴し、生徒さん方からは心の籠ったお礼のお手紙を頂きました。この場をお借りしてご報告申し上げます。

## 総会・懇親会報告と課題

第三八回懇親会は、案内状送付に創意工夫を加え、評議員・幹事・役員の皆様が精力的に会員集めに奔走

した結果、会員一九七名、総勢二〇七が集い、盛大に開催されました。

昨年・一昨年の会員参加者数は一六〇名弱。年々減少傾向にあった参加者数に、一応の歯止めが掛けられましたことは、実に喜ばしい限りです。

しかし、総会・懇親会出席状況表に見るように、総会員数一、一五〇名に対し、案内状の返信者数は五五五名と凡そ半数、参加者数は二割弱の一九七名に過ぎません。せめて返信率を六割まで高め、二割強の二五〇名の参加を期待したいものです。

卒業年度別にみると、参加者の無い年度もあり、年度毎のバラツキが見られます。同窓会は同窓生の基本単位である同期会が連綿として繋がることから成り立っています。同期会で会員を掌握し、誘い合つての参加が望まれるところです。

昭和五三年卒以降の参加者は昨年五名に対し、今年は一八名と大幅に増加いたしました。が、会員登録が少なく会員発掘がこれからの課題となっております。

(昭和三八年卒 小原記)

❖❖❖ 会 務 報 告 ❖❖❖

平成 25 年

- 4月3日 役員会 於：事務局
- 4月20日 評議員会 於：東京しごとセンター
- 議題1 第37回総会・懇親会について
- 議題2 役員改選について
- 第37回総会・懇親会案内状の発送作業
- 5月18日 総会1ヶ月前の事務局打合せ 於：事務局
- 6月15日 総会1週間前の事務局打合せ 於：事務局
- 6月21日 本部同窓会・母校との交流会 於：新宿ワシントンホテル
- 6月22日 特別講演会開催（講師 岡野信久氏 46年卒）於：新宿ワシントンホテル
- 第37回総会・懇親会開催 於：新宿ワシントンホテル
- 7月20日 吹上高校関東地区同窓会総会 大平会長出席
- 7月20日 役員会 於：薩摩の里
- 議題1 第37回総会・懇親会について
- 議題2 会報誌「神戈陵第37号」編集会議
- 懇親会 役員・年度幹事
- 8月1日 会報誌「神戈陵第37号」原稿依頼文発送
- 8月31日 南さつま市関東ふるさと会総会 大平会長出席
- 9月～ 会報誌「神戈陵第37号」校正作業 役員
- 10月20日 関東知覧会総会 南谷副会長出席
- 10月26日 評議員会 於：東京しごとセンター
- 議題1 第37回総会・懇親会について
- 議題2 第38回総会・懇親会について
- 議題3 東京同窓会の活性化について
- 会報誌「神戈陵第37号」の発送作業
- 年会費納入依頼と寄付の募集
- 年会費・寄付金の整理 会員寄付金 122件 430千円

平成 26 年

- 1月～ お礼状の発送
- 2月15日 役員会 於：薩摩の里
- 議題1 第38回総会・懇親会について
- 3月9日 関東さつま川辺会総会 大平会長出席
- 3月15日 役員会 於：薩摩の里
- 議題1 第38回総会・懇親会について

総会・懇親会卒業年度別会員出欠状況(平成26年度)

	会員数	出席者	欠席者	出席率(%)	返信率(%)	10年間返信無	比率(%)
昭和27年以前	183	14	61	8	42	31	17
昭和28年	30	4	14	13	60	3	10
昭和29年	27	5	8	19	48	5	19
昭和30年	39	8	13	21	54	6	15
昭和31年	27	0	11	0	41	7	26
昭和32年	35	7	18	20	71	6	17
昭和33年	41	12	14	29	63	6	15
昭和34年	40	16	16	40	80	4	10
昭和35年	45	12	11	27	51	11	24
昭和36年	41	8	16	20	59	7	17
昭和37年	35	3	16	9	54	5	14
昭和38年	28	5	5	18	36	6	21
昭和39年	29	2	9	7	38	7	24
昭和40年	34	3	9	9	35	4	12
昭和41年	41	10	7	24	41	8	20
昭和42年	37	3	17	8	54	6	16
昭和43年	61	6	14	10	33	27	44
昭和44年	35	0	17	0	49	6	17
昭和45年	40	12	11	30	58	9	23
昭和46年	41	15	9	37	59	9	22
昭和47年	28	3	7	11	36	6	21
昭和48年	31	10	8	32	58	6	19
昭和49年	34	4	10	12	41	7	21
昭和50年	29	5	9	21	52	5	17
昭和51年	30	5	7	20	43	8	27
昭和52年	28	7	4	25	39	9	32
昭和53年以降	81	18	17	22	43	24	30
総数	1,150	197	358	17	48	238	21

❖❖❖ 平成25年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告 ❖❖❖

自：平成 25 年 4 月 1 日 至：平成 26 年 3 月 31 日

収入の部	金額	支出の部	金額
総会会費収入	1,191,000	総会費用	1,336,469
年会費収入	156,000	会報誌作成費・通信費	202,493
総会欠席者	408,000	会議費(会場費等)	65,013
252,000		通信費	36,460
会報誌広告収入	110,000	他会出席	40,000
寄付金	526,000	事務用品費	33,579
雑収入	9,000	雑費	65,375
郵便貯金利息	82	振込料金	25,370
前期繰越金	631,475	翌期繰越金	1,070,798
合 計	2,875,557	合 計	2,875,557

出席者総数 169名

内訳(会員男性 86名、会員女性 70名、学生 1名、会員外 2名、来賓者 10名)

上記の件、監査の結果相違ありません。

会計監事 堂園 俊秋  
 " 島海 睦子

平成 26 年 6 月 14 日

編集者…  
 南谷 川村 堂園 島海  
 松永 深井 西宮 岡本  
 川原 椎原 蔵元 林  
 中原 田中 小原

(昭和三十八年卒 小原記)  
 ご笑納ください。  
 行の運びとなりました。  
 皆様の協力を得て会報誌「神戈陵」第三八号発行の運びとなりました。  
 多くの同窓生・役員の方のご協力のおかげで、発行・感動・元気を得てほしいと願っています。  
 同窓会にご出席頂き、母校との関わりから新しい発見・感動・元気を得たい。  
 多くの会員の皆様が持つようになり、新しい発見・感動の連続である。

編集後記

この春、卒業以来五十年ぶりに母校を訪れた。校舎はすっかり変わりが、当時の面影は無かったが、厳かな石造りの正門、校庭の奥に鎮座する神戈陵は当時のままで、在りし日が偲ばれた。

それにもまして感動的だったのは、トランペットを抱えて歩いてきた生

徒さんが、歩を止めて挨拶して頂いた姿に、日本伝統の茶道にも通じる立ち居振る舞いの美しさを感じた。塵ひとつない清掃された校庭を見るにつけ、母校の洗練された教育が窺がわれ、OBとして誇らしく思い、また母校に関わる職員の皆様に感謝したい。

同窓会を通して、母校と関わりを持つようになり、新しい発見・感動の連続である。多くの会員の皆様が

### 藤井光春法律事務所

弁護士 藤井光春

(川辺中昭和17年準卒)  
坊津町久志出身

〒105-0003  
東京都港区西新橋1-21-8  
弁護士ビル707号室

先輩、後輩のみなさん高田馬場の

郷土料理⊕「薩摩の里」にぜひ

おじゃったもんせ!!


新宿区高田馬場4-18-10-2F  
TEL 03(3363)3258 FAX 03(3350)1483  
予約 40名様可能 営業時間 午後5時より午前1時まで  
定休日 第1・第3日曜日 高田馬場駅徒歩5分  
店主 山下由人(知覧出身、S48年卒)

### 関東さつま川辺会

第25回総会は、平成27年2月28日(土)  
12:00よりホテルメトロポリタンエンド  
モント(千代田区飯田橋)で開催致します。  
川辺出身の方に限らず、ご縁のある  
方々のご参加をお待ちしております。

会長 川野博一  
(川辺高昭和37年卒)

連絡先 〒181-0005 三鷹市中原3-8-30  
事務局長 吉留浩一 (0422-26-7065)



一流シェフのフレンチを  
リーズナブルに楽しめる

## ピリオピンクイオ

オーナーシェフ 小椋 清明  
経理担当 小椋 みつ子  
(旧姓 小原 41年卒)

川越市脇田町17-33  
Tel/Fax 049-226-4567  
<http://homepage3.nifty.com/pinkio/>  
東武東上線川越駅東口より2分

### 俳句を始めませんか!

○天穹俳句会 (主宰 佐々木建成)  
〒150-0022  
東京都渋谷区恵比寿南2-8-3中村ビル602号  
高浜虚子の流れを汲む“古趣創生”を旨とする  
全国屈指の句会です。  
俳句雑誌「天穹」(月刊句誌)刊行

○大船風来坊俳句勉強会  
川辺高校卒業生中心の勉強会  
JR駅前毎月1回開催し、俳句の勉強を  
楽しんでいます。現在10名(内 女性4名)

連絡先: 大平 政弘(川辺高校昭和34年卒)  
電話: 045-891-0197

### (株)オーエム経営センター

会計事務代行及び経営コンサルタント

税理士 大平 操  
税理士 中村 紘一  
税理士 平良 享  
顧問 大平 政弘  
(川辺高校昭和34年卒)

〒105-0011  
東京都港区芝公園2-6-11  
芝公園アビタシオン201号  
電話03-3436-6937



人と地球にやさしいモノづくりを...

## 第一大宮株式会社

監査役 小原 東洋明  
(昭和38年卒)

東京営業所  
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町  
1-8-10三ツ美ビル3F  
TEL 03-5614-7773 FAX 03-5614-7774  
携帯090-5546-8670  
M-mail:kobart440803@docomo.ne.jp  
URL <http://www.no1ohmiya.co.jp/>  
本社  
〒566-0045 大阪府摂津市南別府町16-16

### 相続のご心配事 経営の事業承継

ご相談受けいたします。

- ・親子、兄弟姉妹で争わず仲良く相続するための準備とは?
- ・経営を後継者へスムーズにバトンタッチするための問題は?

ライフプランナー  
トータルライフコンサルタント  
日本FP協会会員

東京都品川区大崎1-11-1  
ゲートシティ大崎  
フルデンシャル生命保険株式会社  
首都圏第1支社  
TEL: 03-6675-9837  
携帯: 090-4962-1820

内村 哲也 (昭和50年卒)

## いたさか歯科医院

審美歯科・歯科口腔外科  
小児歯科・矯正歯科  
インプラント・ホワイトニング

○相模原駅前クリニック  
☎0120-55-4618  
ゴーゴー シロイハ

○田名本院  
TEL 042-714-0648  
ナイヨ ゼロムシバ  
理事長 板坂 健一

### ご案内 第39回 東京同窓会

.....

平成27年6月27日(土)  
新宿ワシントンホテル  
にて開催されます。

昭和37年、47年、57年、  
平成7年卒業の  
皆さん、年度幹事の年です。  
ご協力お願いいたします。

労働保険・社会保険・労務管理・給与計算のことなら



### 川野労務管理事務所

www.kawano-srj.jp

所長 社会保険労務士 岡 清司

社会保険労務士 有村 公美子  
(平成6年卒)

〒160-0017  
東京都新宿区左門町20-6 内藤ビル1階  
電話: 03(3353)7755 / FAX: 03(3353)0264  
E-mail: info@kawano-srj.jp  
URL: <http://www.kawano-srj.jp>

## 知的創造

何を創るかはおまかせします  
どのように造るかをお手伝いします

企画編集から製本まで  
自費出版を応援します!!  
カラー名刺・絵ハガキ  
小部数でも安価でできますご相談下さい

Eishin 株式会社 盈進社  
代表取締役社長 下園典子(金峰町出身)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-2 三信ビル  
TEL 03-3262-3471(代) FAX 03-5210-7226  
URL: [www.eishinsya.co.jp](http://www.eishinsya.co.jp) Eメール: info@eishinsya.co.jp



春 正門左手より写す



冬 正門正面より写す



KYT テレビ放映



登校風景



矢石



LL 教室



朝の挨拶運動



高校総体なぎなた演技 田口・上村組



全国高校総合文化祭（水戸市）吹奏楽部